

塞垣
開戰



塞国人とて、倭国皇太子及妃と
暗殺せしむ。倭国塞国と誑る、塞
屈せず、倭終に戦と塞に宣す。
露は起て塞を援け、獨は倭と同
盟の故と以て起て露を逆へ、同機先
を制するに目的と以て、露と同盟
ある倭国と露を撃す、
せん

大正三年六月二十八日
今 七月二十六日

倭太子及妃暗殺
セラル
倭国塞国に戦
ヲ宣ス

新編 日本書紀





2

大正三年八月十日



全欧修羅の巷とふる



智、仙と號ふとし、路と白耳義の
 借えとす、自、中立国たるの体面を
 保ちて之と拒む、智即ち先づ白を
 屠えとし、大軍を以て之と強壓
 す、英國憤然起て戦と智は宣
 す、日本は英と同盟の故を以て遅
 かまふ之を鷹呼す、全欧のみ震動
 す。

此の時伊は智と同盟あるもの
 関らず中立と宣言し、米国は形
 勢を傍觀して容易に鋒芒を顯
 はさず、竊かに陰謀を運らうと
 あるものあり



大正三年八月十五日



3

皇国最後通牒を獨國に送る
よりハッちへ引渡せ

日

独

大正三年八月十六日

「おうは
手柄を取て見ろ」



三かは便郵



日本郵乙子最後通牒を送て曰
く速に膠州湾を支那に還附す
るし目的を以て日本に交附せよ
八月二十三日正午迄は回答せよ
若し我が要求を應ぜざれば我ハ我
が欲する所を為さんと

4

利栄寿陷落

大正三年八月十七日



全

「あらは
手柄、取て見よ」

大正三年八月十八日

獨

日

「きりく
さうちへ引き渡せ」



愚

大正三年八月二十三日

長

獨

日

5



今日、日清国交破れ、日本が
乙未向て宣戦す、我、我が最
後通牒を對して回答せよとせ
れいなり

郵便は便郵



独



日



日獨国交断絶

大正三年八月廿三日

姓

6

獨國
四面
皆敵

大正三年八月廿五日



7

日 墾
国交断絶

大正三年八月二十九日



とかは便郵



本日日墺国交断絶し、墺大
使日本と去る、蓋し吾国と
對する墺の義務あり。



9

膠州灣封鎖

大正三年九月二日



郵便かはし



猪軍白仏国境と越え、露軍
露猪国境と越え、互に敵国の
首府に向て猪突せんと欲す。

10

獨軍攻勢



大正三年九月四日



きかは便郵



英仏聯合軍振はず殊々
左翼の英軍は毎戦退却
し、今や巴里を距る僅か
五十哩、巴里包圍期せられ
仏京ホルドーを遷さんとす



露軍
奮闘



大正三年九月四日



露軍連りゝ智壘を敗る
レンブルグを包囲するちと八日
よりて之を陥れ壘軍の死命
を制す、

露国首府とペトログラードと
改稱す

郵便はか





北海ヘルブランドの英船の海戦あり、獨艦敗る。

郵便はかき



13

英國
大正三年

九月四日



皇國の
臨時議會

大正三年
九月五日



15

大正三年
九月五日

皇軍龍口上陸す



皇軍省 行 紙 留 書

印 留 留 留 留

皇軍山東省の北岸龍口鎮に
上陸す、陸路膠州湾の背後を
衝かんが為あり

郵便便はかき



大正三年九月七日

英露佛媾和條件を
協定す

一英露露三國
政府ハ今次戰
争繼續中ハ
互ニ軍備ヲ和ラ
シメセラルベキヲ約ス

二國政府講和條件ヲ議スルニ當リ
屬シ同盟國ノ中ニ國々同同意セ
ルニ於テハ他ノ一國ニ何等ノ講和條件
ヲ要求セラルベキヲ約ス

大正三年九月五日



英仏露三国懐疑を結び預見
講和に關する約を定む、蓋し飽
ちて三国の結束を堅めて獨と
粉碎せんとするの意あり

きかは便郵



17

獨軍巴里に肉薄す

獨乙

仙郎西

田田

大正三年九月七日

忠太



18

佛国政府を
バルドーに遷す

独

中
大



大正三年九月七日

仙国政府をホルドーに遷す、
巴里は此に於て軍の一大要塞
とあり獨軍の計画大に翻転す

郵便はかき



皇軍飛行機と膠州灣上子龍石



皇軍飛行機を膠州湾上へ驅り
爆弾を敵の陣地に投じ、彼の胆を
して寒めらるゝむ

郵便はかき



安土城の水攻め



大正三年九月十日

21

日

独

在獨日本人拘禁さる

大正三年九月十日



22

佛軍攻勢

独

仙

大正三年九月十二日

大忠



英仙聯合軍漸く勢力を恢復し
攻勢を轉ず。吾軍遂に終に退
却の止むを得ざるに至る。

合

無便はなせ



23

カイゼル
露營の
夢





塙軍連戦連敗今ヤグラカウ
 の要塞と失い終ゝ再い起ツ能ハ
 ざんとす、與市兵衛と相棒みお
 りたる定九郎のマゴツキ方蓋レ
 非常あるものありん

郵便はかき





全欧を焼き尽さとするの劫火
 は燃えて益々熾あり。伊太利、羅
 馬尼、勃牙利、アルバニア、希臘、土耳其
 等片嚙と吞んで弥次多岐き方向
 を覗ひてあり。

印度大軍と英を送る。

郵便はかき



窮困臘希

226



大正六年正月十四日



さかば便郵



白王軍即墨也占領す、
次て膠州也占領す、

塙露
獨佛相
逐て其
後と衝く



さかは使郵



露軍戦塙を敗り塙復た起
つ能はず、お巳と得ず對佛軍
の大部隊と東境を送り露軍
當る、露軍終に退却す、英
佛軍即ち急にお巳軍と追撃
す、獨秩序を亂して潰走す、



白國獨の甘言を拒絶す

大正三年九月十七日



30

露

獨軍東西に狂奔す
大正三年九月十七日



手負猪の如く荒れ狂ひたる獨
軍は今や主力と露に向ひ來
り、露軍之と受けて忍耐よく
支ぬ佛軍之に乗じて獨軍と追
ひ終ふ之と国境外に驅逐す、猪
腹背敵と受け敵る其境に陷る

郵便はかき



31

獨艦エデン
ベゴール湾
を開かす



大正三年九月十九日



獨艦エムデン、ベンゴール湾に現れ
 其の商船五艘を奪かし、其四艘
 を撃沈し、全乗組員を一艦に收容
 して之を放ち、忽ちその踪跡を晦
 ます

きかは便郵



大正三年九月十九日



吾国曩きみ米国の仲裁を依頼
して成らず、更み伊西西国に向
て仲裁を依頼せんとす

きかは便郵



33

大正三年九月廿日
獨帝窮す



独

34

大正二年九月廿二日

英

大

獨艦
クレー
スベル
南阿
ミ修
議中
の英
艦を
襲ふ

獨艦のケーニヒスブルヒ、南阿サン
ジバル子現いも英艦ペカサスと激
ひて全く戦闘力と失ひしなり。
蓋しお砲精銳ありて英砲の着弾距離
以外より射撃せるあり

郵便はかき





まだお前の
出る幕じやない

大正三年九月二十三日



獨軍退却シテ空ルダシヨリラニス
 至ル戦線ヲ保テ、半永久的防備
 ヲ施シテ持久ノ策ヲ為ス。佛軍
 又之ニ對シテ容易ニ進ムズ、軍西
 今ヤ睨ミ合ヒノ姿ナリ

郵便はかき



36

西軍持久

独

仙

大正三年九月二十三日

大正



37

大正三十九年九月廿四日
獨の潜航艇北海に英艦
三隻を撃沈す



38

國境
内愛
外患





ちかは便無



おこの諸皇子年少氣鋭、猪突ラ
之事トシ、毎ニヘマセヤル、策戦之カ
為ニ誤ラルーイ多ク、報スル者ハ四
皇子皆傷クト云ス、獨帝ノ憤懣
懊惱想スベシ



英軍青島
討伐に未加す

大正三年九月
二十六日



きかは使郵



英軍山東の一角に上陸し我が
討獨軍を加セントス、聊カ有
難迷惑ノ次ナリ

41

ランス寺院破壊



大正三年
光緒廿九年

42

膠州灣
包圍軍
總攻擊



とかは便郵



九月二十六日夜來我軍ハ膠州灣
の敵軍の第一防衛線を對シ総攻
撃を開始シ廿七日朝に至る。

43

巫山

孤山

大正三年十月二日



皇軍
巫山孤山の
線を奪取す



ちかは便郵



九月二十九日我軍巫山より孤山に
亘る地帯を占領す、巫山高
標三百三十九メートル、その附近最高
の地点ありて、イルサス、ビスマルク、モル
トケの諸要塞を眼下六千メートル
の距離に瞰るべし



さか便郵



支那人我國^{とある}の離^り解^{かい}中立を犯せる
ものとし抗議を提出す、お人
の教唆によるものと考へらる



さか便郵



獨艦ニヤルンホルスト及クナイゼナウ
南洋ニ現ハレ佛艦
沈す
と撃手

獨帝身を
以て免る

大正三年十月廿日
大隈



まかは便郵



獨軍露軍を壓してテメン河に至
り、兩軍會戰す、獨軍大敗、カイセル
身で以て免るゝ傳ふ、露軍長
驅して再び東普の境に入る

西軍困憊



大正三年十月六日

智佛の對抗曠日持久勝敗決せず
兩軍共々彈藥兵糧の欠乏と来
し士氣沮喪銷沈す



48

大正三年十月六日
ヤルト島占領



とかは便郵



我艦隊マーシャル群島中のヤルト
嶋に陸戦隊を揚げ敵の官憲の降
服と船も武器彈藥等を押収し、
拘禁中の同朋一名を救ひ、押留中の英
商船を解放す。



50

大正三年十月七日
山東鐵道占領



青島の獨
繫留汽球
漂流す



大正三年十月八日



52

大正三年十月八日

葵月

聯合軍不統一



53

伊太利

羅馬尼

土耳其

旗幟不鮮明



大正三年
十月九日



安土城陷落







獨の飛行機巴里の

ノートルダムを脅す

大正三年十月十三日







獨潛航艇雲の間に多と撃
沈む身も敵手も散らる

大正三年
十月十日





60

大正三年
十月十六日

ワルシャ
危し？



大正三年十月十六日

娼

獨

露

佛



飯面を解て
暫時休息

智軍長驅してガンと隔れ、終に
雙でオスデンドを占領す、英軍
その上陸地点をオスデンドの南五十
哩の處に移す

英京上の報を得て愕然たり

きかは郵便



62

大正三年十月十八

獨軍
オスデント
占領す

KTVO



63

英国葡
国を誘ふ

英



大正三年十月十八日

大正

志かは使郵



英国葡萄牙を護いて起たし
たんとす、蓋し一は南阿の叛軍
を鎮壓せしむ、一は聯合軍の
氣勢を揚げんが爲あり

64

大正三年十月廿日



和蘭沖は英艦
獨の四艦を撃つ

ちかは便郵



英の巡洋艦アングウィンテッド、和蘭
海軍のこの水雷艇四艘を撃沈
す、



独

大正三年十月十五日

帝国軍艦高千穂沈没

大建



大正三年十月廿一日

マリアナ諸島占領



68

高千穂沈没の真相



大正三年十月廿四日

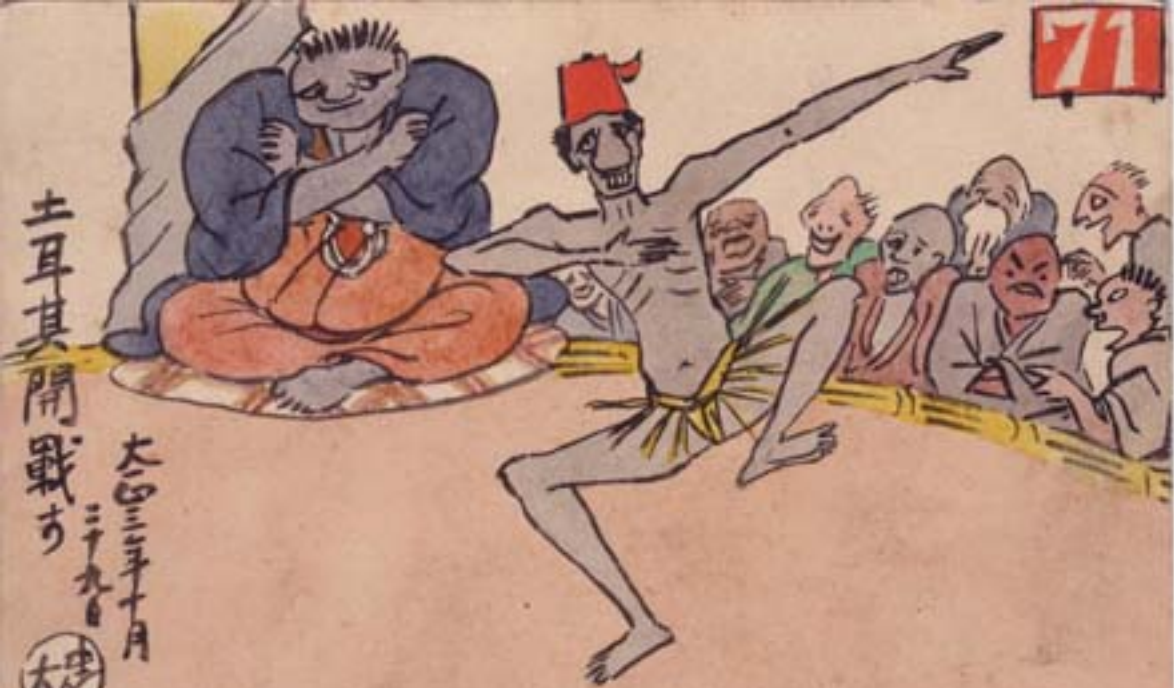


獨艦エムデン
海洋を開かす



大正三年
十月廿五日





土耳其開戦

二十九年

十月



列強相顔





「モ一駄目だ
立ち退いた
方がい」

高橋
「まだ修繕
がきくらう」



大正十一年五月一日
内閣改造説



735

支那内乱



74

大正三年
十月三十日



交戦国均く
戦勝を祈る

土耳其誤らる

大正三年



獨



土



印度

波斯



76

青嶋陥落近づく



大正三年十一月



獨艦智利子
英艦三隻を
屠る

大正三年十月
五日



78

膠州湾の獨艦
カイゼリンエリザベツト
自爆す
大正三年十月五日



大正

佛

獨

獨佛兩軍

佛境のた打ち廻る

大正三年土月六日

佛



80

希

大正三年十一月六日

中

羅

勃

土



巴尔幹諸国向背



82

青島陷落
大正三年十一月七日



83

青島陷落

大正三年十月七日



大正三年十一月七日



青島陷落

獨艦ガイエルの末路

布哇ま逃げ返し
武装を解く

大正三年十月九日



土耳其窮す
露軍小亜細亞を略し
英軍もプロスを取る



大正三年十月九日

獨艦エムデンの最期

ココス島に英艦シドニー討たる



大正三年十月十一日



支那の對日態度

「オラが畑さ
出た猪だ
サッサと置いて
出て行かッ
シヤイ」

支

「先づ一服
やるべーが」

日



大正三年十月十二日

大患

大正三年
十一月十三日



獨艦ケーニヒスベルグ
の末路
南阿サンジバル
の河ま追ひ込め
れて摘みす



90

獨

露軍獨境子躍進す

大正三年
十一月十四日

中
大



ワルビク来る

大正三年十月二十日



俘虜優遇



大正三年
十月廿二日



寒威北歐を歴す

獨

露

大正三年十月廿五日

忠



青島
陥落の
理由

日本の蠻兵ども
戦の作法を辨へず
無二無三に斬り込
来るは何とて溜
りも溜り候へき臣等
戦の慣例を重んじ
潔よく敵軍を降
伏するの光榮を獲
得仕候

大正三年十一月七日

青島総督

ワルテック

頓首百拜

ウエルム皇帝

陛下



大正三年十二月一日
（大正）



大正三年十二月
十日

獨艦シル
シルスト・
クイセウ
ライフエヒ
英艦は
撃沈セ
らる



大正三年十二月十八日
(花の日)



討獨軍
凱旋







帝國議會解散

100

大正三年
十月廿五日

